

或書あるふみの反歌はんか一首

二〇二番

泣沢なきさはの 神社もりに神酒みわす据すゑ 祈いのれども 我わが大君おほきみは
高日たかひし知らしぬ

但馬皇女たじまのひめみこの墓こうじて後あとに、穗積皇子ほづみのみこ、冬ゆふの日雪ひゆき
の降ふるに、御墓みはかを遥はるかに望みみ、悲傷ひしやうりうてい流涕りうていして

作つくらす歌一首

二〇三番

降ふる雪ゆきは あはにな降ふりそ 吉隱よなぼりの 猪養ゐかひの岡をかの
寒さむからまくに